

〔翻 訳〕

『スペクテイター』 (65)

——第620号から第629号——

門 田 俊 夫

第620号 1714年11月15日（月曜日）

【ティッケル】

この勇士，こちらにいる勇士が，おまえも何度か約束を
聞いていよう，アウグストゥス・カエサルだ。（ウェルギリウス）¹⁾

最近，読者には偽りの崇高さに溢れる詩を紹介しましたので，本日は真の崇高さを示す素晴らしいお手本をお伝えしたいと思います²⁾。この詩はまだ出版されていませんが，賢明な読者なら大家の作品であることに気づかれるに違いありません³⁾。「和平の見通し」についてのこの気高い詩をお読みになれば，その著者が誰なのかすぐにお分かりいただけます⁴⁾。

国王の巡幸⁵⁾

ブラウンシュヴァイク⁶⁾が最初に顔を見せたとき，
詩に没頭する誠実な心は芸術のルールを見下した。
彼にとって，詩人たちは韻律の不揃な頌詩の形で，
アルキデスの品性を落とし，神々をその座から引きずり下ろした⁷⁾。
隆盛を極めたインド諸王に導かれて，また，
スルタンの頭からターバンを借りて。古の寓話の形で，
異教徒の血を引く者が，ニンフやトリトンを引き連れて，

1) ウェルギリウス『アイネーイス』6.791

2) 第617号参照。

3) これは初めて活字になった。

4) この詩は1712年末に出版された。アディソンが第523号でこの詩を賞賛した。

5) ジョージ1世は8月末日にドイツを出発し，オランダを経由し9月16日にイングランドに向けて出帆した。18日にグリニッジに到着し，20日月曜日にロンドンへ入った。

6) ジョージは一般にハノーヴァーとして知られているブラウンシュヴァイク＝リュネブルク選挙侯だった。

7) 現代の英雄を称えるために古典の神話を用いる詩人たちを嘲笑することは，第523号でアポロンやマルスやペローナを用いることを酷評したアディソンを思い起こさせる。

彼にメイン川を渡らせる。またある者は獐猛なルシフェルを抱き寄せ、
黄泉の国を警報で満たす。三番目の人物はドルイドを目覚めさせ、
今後の侘しい独房からの解放を予告する。

覆された空想よ！ 欺いても無駄だ。信じられないことに吐き気を催す。
私の詩神は英雄を待ち望んでいるのだが、国からか国へと追い掛け、
彼から目を離さない。輝ける彼の旅は忠実な詩の形となって、
彼を描くことで満足し、褒め称えることを前提としていない。
もしその魅力があるとすれば、真実がそれを与えてくれ、
そこから自然の美が生まれる。

国王を切望している人々によって、人々の権利を守って欲しいと
招かれたのだ。威厳に満ちた彼の魂は密かな悲しみに包まれて
嘆いており⁸⁾、イギリスの王冠は索漠たる輝きを放っている。
運命づけられた彼の巡幸にあるのは祈りと涙であって、
歎き悲しむ群衆が国王の道を覆い隠す。敵対する騎兵大隊が待ち構え、
彼の寛大な血を掻き立てたとき、興奮した彼の軍馬が
ハンガリア平原を進んだとき、敵の軍団にはむなしく激震が走った⁹⁾。

彼は国境を過ぎ、ベルギーの国境を目にし、平坦な平野を横断して行く。
そこで自由の地を見て喜び、際限のない力への渴望を大いに軽蔑する。
彼は痩せ地に移植された木々と借り物の緑があるのを静かな
喜びをもって見つける。牧草地はすべて血と汗を流して傲慢な
暴君と荒れ狂う洪水から勝ち取ったものであり、丹精込めた後背地に
果物と花を供給し、湿地を肥沃な土地に変えている。
神は質素な人たちのためにそのような産物と贈物と最高の自由を
与えられているのだ。

堂々とした街並みと肥沃な平原をいくつも通り過ぎながら、
華やかな一行は近くのメイン川へと差し掛かる。
すべての人々が歓喜の声を上げながら集まって来て、
英雄の姿を飽くことなく見つめる。

8) 非常に強力な王位につけられ、統治権が付与されたというニュースは彼にとっては喜ばしいことだが、ジョージは英雄に特有の冷静な心でそれを受け止めた（『政治状況』1714年9月）。

9) ハノーファー選挙侯ジョージは皇帝側についてハンガリーと戦ったことがある。1683年ウィーンでのソビエスキー救出、1685年ハンガリー、ノイハウゼン占領、1693年ネールウィンデンの戦いで手柄を上げた。ただし、フォン・ハマースタイン將軍の働きのお陰だった。

彼はハーグの塔でイギリスの船団の帆をはらますにふさわしい東風が吹いて来るのを待つ¹⁰⁾。ここにイギリス国王の名声を聞いた近隣諸国の王たちが友好の誓いを立てにやって来る。彼の英知と広い心、偉大なる憂国の士が人々のさまざまな関心を引くのだ。あなたの不安に満ちた心を静め、彼を安心させるのだ。ヨーロッパよ、安心するがよい。今後は諸王国を神が定めた石と川と土塁で境界を作ることにする。即位したばかりの国王はアルプスを越えないこととし、ピレネーの山々もそうだ¹¹⁾。

だが見るがよい。騎兵大隊がイギリスの島で持ち場について、沈みゆく塔と減ってゆく国土を見捨てる。王の小帆船が浮遊する海原を躍動し、大波の中を突き進み、メイン川を分断する。偉大なる国王は広大な海に目をやる、空で区切られた水の眺めに。無数の岸を離れた無数の船がゴムと金と東西インドの品々を運ぶ。急いで王の元に届けられている数々の貢物を見るがよい。すべてあなたのものだ。

これもまたあなたのものだ。今快活な乗組員たちが真っ白なアルビオンの絶壁を歓迎しているが。順風をうけて彼らは進む、テムズ川が満ち潮になって彼らを受け入れるまで。国王は雷鳴のような轟きを耳にする、木々は揺れ、山からはこだまが跳ね返ってくる。耳をつんざく一隊の中にあっても、ざわめくメイン川の轟きを聞き逃すことはない。

彼が海を進むとき、両側から田舎の誇りに包まれた彼の王国が目に入る。広々とした風景がさまざまな景色を生み出す、肥沃な囲い込みと肥沃な畑越しに。肥沃な牧草地には牛や羊の鳴き声が満ち、遠くの丘には牛や羊の群れがさ迷っている。木々に囲まれている美しいグリニッジが新たな喜びをもって、

10) ジョージは9月5日にハーグに到着していた。ここでイングランドの代表団と話をし、フランス、スペイン、ポルトガルの使節を迎え入れた。

11) ユトレヒト和平条約の条件の一つがスペインのフェリペ5世が、その結果ピレネーが事実上再び二つの王国になるような先祖返りのフランス王への要求を放棄することだった。

木々の間から見える。その森は各地を訪ね、
それまで名誉を与えてくれた国を守るように定めたのだ。

今や太陽は西に沈みかけており、かがり火の炎が薄れゆく
明かりを取り戻す。屋形船は無数の小帆船を抱き、
光り輝く金色で黄昏時を明るく照らし出す。
魚の溢れる浅瀬は澄んでいて、鯨や堂々としたイルカの前を
数えきれないほどの稚魚がはねている。
大きく叫んで、彼は人々が群がるストランドを捜す、
陸地では雷鳴が轟く。

偉大なる訪問者よ、ようこそ、待ち望んでいたのだ、
アルビオンは喚声でもって待望の国王を迎えた。
あなたのために、東風が順調なそよ風を吐き出し、
天候にも恵まれ、海原も穏やかだった。
確かにあなたの存在は人々を不安に陥れたし、
徒党はかつて敵だったことをいぶかしく思った。
この喜びに満ちた日に、彼らは敵であることを忘れ、
表情も声もすべて一つになった。

有望な双生児はこの心地よい瞬間に母なる気持になって
互いに映し出された気品を見せ、二人の顔には同じような
魅力が浮かび上がる。どうなっているのかと当惑している
訪問者たちは錯覚して微笑む国王に感謝の気持を捧げる。

白髪 of 賢人たちが得意げに星々に名前を付け、
天使の数を数えるあの美しい丘¹²⁾ から、
明日の暁までには偉大なるアウグスタが現れる、
誇り高き町が、天の下で最も気高い場所が。
テムズ川の川面に、数多くの尖塔が輝き、
夥しい数の船団が広大な川床と水上の御猟場を隠す。
遠くのストランドから細長く続く湿原が陸地にかかっているのが
見える。華やかに着飾ったブリタニアの貴族たちが、
国王の御前で、意気揚々と先導する。見渡す限り、

12) 1675年、グリニッジ天文台の初代長官に任命されていたジョン・フラムステッド(1646-1719)は、1676年、のちにフラムステッド邸として知られることになる家に移った。70歳近くになったとき、彼の天文観察を無断で出版したか否かという論争に巻き込まれていた。

飾りたてた一行が晴れやかに行進して平原を埋め尽くす。

期せずして天の広い道なき道を、彗星が長く尾を引く光を放つ。
 天空を東から西へ輝きを放ち、凸状になった天空の半分が
 その光できらきらと輝く。

今や無事に国王の館に着き、国王はブリタニアの栄光について
 思いを巡らす。委譲した権限を取り戻し、忠誠を尽くした者に報い、
 勇者を復帰させる。詩に彩を添えるために、詩神は数多くの
 顕著な働きをした者の中から誰を選び出すのか。

ハリファックス、それはあなただ。包容力のあるあなたの心に、
 折り紙付きのあなたに、イギリスの富は委ねられているのだ。

ナッサウが戦っている間に価値が下落し乱れた貨幣は
 あなたによって魅力と真実が元通りに取り戻された。

刻苦勉励のお陰だ。再びあなたに責任が掛かる、

今一度あなたの力を必要としているのだ。いかなる場面でも、

畏怖と喜びをもって、機知には華やかさを、

威厳にはゆとりをつき交ぜるのだ。

あなたは燦然と輝くことが求められているが、あなた自身が
 かつて異彩を放った学問に微笑みかけることを拒絶することはない。

これに対しては、今後もあなたの名前が称えられ、
 あなたの名声ほどガーター勲章は妬まれることはない¹³⁾。

詩神はあなたの活力あふれる輝きに掻き立てられると、

おそらくさらに高尚なテーマに狙いを定め、

わが国王をもっと気高い文体で記録し、

彼の治世の開始の驚嘆を歌い上げるだろう。

晴れやかなカロライナの天上の美が彼女の勇敢な配偶者と

咲き誇る彼の血統を辿る。実り豊かな愛が一連の王を生み、

アルビオンの狂喜した人々の目に燦然とした光景を提供する。

誰もがブラウンシュヴァイクの手に握られた王笏を目にし、

王笏がいつまでも彼の血統に渡されて行くのを目にするのだ¹⁴⁾。

13) ハリファックス卿はジョージから摂政の一員として指名されていた。この詩行は彼が1695年の硬貨
 鑄造に関わっていたことを言及している。

14) アン斯巴ハの王女ウィルヘルミナ・キャロラインは『グレート・ブリテンの政治状況』で、大変な
 知識欲がある愛想のいい魅力的な人物だと述べられている。のちのジョージ2世である彼女の配偶
 者は当時31歳だった。王女は10月11日にマーゲイトに到着し、そこで夫と顔合わせをして、アンと

第621号 1714年11月17日（水曜日）

【ティッケル】

驚きに満ちた顔つきで、星や動く惑星を彼は見た、
 そして、太陽の弱々しい光線を見下ろし、昼間が生気を
 なくしてぼんやりとしているのに気づいた、
 辺り一帯は夜の雲に覆われていた。(ルカヌス)¹⁾

つぎの手紙には一風変わった見方が伺えますので、本日はこれを取り上げたいと思います。

観察者殿

派手で美辞麗句を連ねた著者が論じる人間の誇りに対する一般的な論題は、人間そのもののあさましさ、不完全さ、あるいは誇る美点の短命さから取られます²⁾。私たちが虚栄心を高めることになるものを何一つ持てないのは事実ですが、自分自身の長所を意識することは時として賞賛に値することになるかも知れません。つぎのような場合は愚かさとなります。私たちは往々にしてつまらない、おそらくは恥ずべきことを自慢し、その一方で、この上なく誉れとなることを恥ずべきことだと考えます。

それゆえ、賞賛を好む人は賞賛を獲得するのに手段を間違えます。もし虚栄心の強い人物が自らの心を顧慮してしまうと、自分だけでなく他人に自らの弱点を知られることになり、厚かましく人々の尊敬を期待することが出来ないことに気づくに違いありません。それゆえ、誇りは熟慮の欠如、自分自身への無知から生じるのです。知識と謙虚が同居している訳です。

自分自身を評価するのにふさわしい方法は、他者の何を評価し何を見下すかを真剣に考えることです。財産や華やかな衣服や新しい肩書といった長所を自慢する人は、一般に嘲笑の的にされます。それゆえ、他者の場合であれば一笑に付すことで自分にほれほれすべきではありません。

ましてやいざれどこかの時点で見下すようなことで自慢することは絶対に避けなくてはなりません。だが、すでに経験したそして今後経験しなくてはならないいくつかの変化についてあれこれ考えて見れば、知識と知恵の大半が明らかにするのは私たち人間の不完全さだということに気づきます。

子供から青春期になると、それまで夢中になっていた玩具や小物に見向きもしなくなります³⁾。成人すると、青春期の軽率と無節制に対する恥辱と後悔をどれだけ持つかで賢明

アメリカという二人の若き王女と一緒にセント・ジェームズ宮殿へと向かった（『政治状況』1714年9月）。

1) ルカヌス『ファルサリア』9.11-14

2) 『ガーディアン』第153号参照。アディソンは、人間というものには本来罪深く、無知で、惨めな存在なので、誇りを求めることはないのだと主張した。

さの度合いが変わって来ます。老齢になると、気掛かりな富や不確かな名誉を追い求めて浪費した人生に対する屈辱感で一杯になります。これは現世におけるこういった思考の変化にふさわしいものですから、当然、来世では知恵や経験や老齢の処世訓は、霊魂から高齢者が現在子供の愚かさや戯れを見るのと同じような見方をされると考えられます。誇示や名誉や狡猾さといったものは、現在4歳から9歳ないし10歳までの技と力と功名心を必要とする回転木馬や模擬戦やその他の遊びのようにたわいのないものと見なされるでしょう。

人間は最も卑しい存在から至高の存在へと徐々に成長していくのだという考えが中身を伴わない夢でないとしたら、人間が自分たちに一番近い生き物にそうするように、天使が人間を見下すということがあり得るのです⁴⁾。(この点について考えて見ますと)これと同じルールから、高等動物は劣等動物を一種の誇りを持って見下します。もし高等動物に考える力があれば、その身振りから彼らは自分たちがこの世界の主権者であり、あらゆる物は自分たちのために作られているのだと考えていることが分かるかも知れません⁵⁾。この考えは動物の世界では、人間が楽しむこと、つまり、大空の星はすべて、ひとえに自分たちの目を楽しませ、想像力を駆り立てるために存在しているのだと考えることほど馬鹿げたことではないに違いありません。ドライデン氏は、『雄鶏と狐』という寓話で、主人公の雄鶏のためにこれにふさわしい台詞を与えています⁶⁾。

振り向いてペルトロットに言った、見てご覧、
自然は何と気前よく飾り立ててくれていることか、
淡いサクラソウもスマイレも咲いて、鳥たちも喉試しをして、
鳴くのをやめている。いいかいこれらすべて私たちのものなのだ、
何と楽しいことだ、見てご覧、人間は2本足で威張って歩き、
私のまねをしているのだ。

結論的に言えることは、優れている人々が大切だと考えていることだけを大事にすべきだと言うことです。なぜなら、それが来世で評価を落とさない唯一の方法なのですから。

第622号 1714年11月19日(金曜日)

【ティッケル】

それとも隠遁した密かな生活なのか。(ホラティウス)¹⁾

3) ポープ『人間論』2.275-82および第626号参照。

4) 『ガーディアン』第153号参照。

5) ポープ『人間論』1.131-40参照。

6) ドライデン「雄鶏と狐」はチョーサー『カンタベリー物語』「尼僧侍僧の話」から。

1) ホラティウス『書簡詩』1.18.103

観察者殿

以前の思索で、貴殿は真の偉大さは大多数の人々が考えがちな華麗さや噂にはないと述べておられました²⁾。そこでは往々にして、優れた人の目には、人々に認められている偉大さや壮大さよりも世に埋もれた美德の方が輝いて見えるのだと指摘なさっておられます。

王や政治家や司令官になるべくして生まれた人たちの経歴を回想してみますと、同時代人の目をくらませる見掛けの装飾を取り除いているように思えます。本人が偉大であるかどうかを決めるのは美德あるいは悪徳が際立っているかいなかなのです。哲学者と君主を長い目で見た場合、私たちは強大な君主よりもつましい生活環境の中で賢明な格言を残し、寛大な心情を持ち、私心のない振る舞いをした哲学者の方を高く評価します。もし尊厳を持ち、美德のルールに従って生きた無名の人の回顧録を見せられると、そこには最高の地位についた人たちと何一つ変わらないものがあることに気づきます。つぎに掲げるものはある誠実な田舎の紳士の私信の抜粋ですが、これを読むと以上のことがよく分かります。おそらく読者がこういった人目につかずに、目撃者もいないで行った行為を知れば、多くの人々を魅了した人たちよりも彼のことを高く評価することでしょう。

回顧録

22歳のとき、私は従兄弟のチャールズの細君に対する激情が募ってきていることに気づきました。そこで諸外国への旅を始めていなかったら、そのまま愛情を抱き続ける危険性がありました。

帰国後ほどなくして、叔父のフランシスと二人で話をしたとき、叔父の資産の申し出を断り、息子ネッドの相続権を奪わないようにと叔父を説得しました。

備忘録：ネッドが亡父のことをひどく思ったらいけないので、このことは彼には告げないこと。もっとも彼はこのことで相変わらず私のことを悪く言っているのですが。

甥のハリーと彼の母親との外聞の悪い訴訟については、母親に身銭を切って争いに相当する金額を毎年与えることでこの訴訟を取り下げさせました。

私の家庭教師であり死亡して20年になる人の姉の息子にあたる若い牧師に聖職録を手に入れてあげました。

友人〇〇の寡婦である気の毒な△△夫人に10ポンド与えました。

備忘録：元の体重に戻るまでは食卓で一皿減らすこと。

備忘録：収穫期が終わったあとの貧しい人々を雇うために、家の修理と庭の手入れをすること。

ジョンに指示して夜囲いに入れられる××さんの羊を解放させてあげました。

ヤマウズラを撃ったことで農夫の息子を告訴しないで銃を返してやるように郷土エム・ティーを説得しました。

薬屋に魔女だと告白した老婦の治療代を払ってあげました。

2) 第610号参照。

乞食に咬みついた愛犬を手放すことにしました。

教区牧師とホイッグの判事に、意見交換をさせて意志の疎通を図らせてあげました。

備忘録：離れてドングリを食べている最中の雌鹿を撃ったピーターを解雇しました。

いつも私を傷つけている隣人のジョンがやって来ると、依頼を翌日回しにします。

備忘録：私は彼を許しています。

小麦不足の貧しい人々を救うために、馬車を使用しないようにして馬を売却しました。

同年、小作人に地代の5分の1を免除してあげました。

今日外気にふれていたとき、心温まる思いになりました。今後もそうあって欲しいと望んでいます。

備忘録：息子に私の記念碑を建てないように依頼すること。だが、遺言にはこのことを入れないこと。

第623号 1714年11月22日（月曜日）

【ティッケル】

だが、わたしの前に大地が底まで裂ければよい、
 さもなくば、全能の父神がわたしを雷電で打ち、
 死者たちの国へ、エレブスの青ざめた亡霊たちと深い
 夜の国へ突き落してくださればよい、ああ、恥じらいの心よ、
 わたしがおまえを汚し、その掟を破るくらいなら。
 あの人、最初にわたしと結ばれた人こそがわたしの愛を持ち去った。
 あの人がそれを手元にとどめ、墓場で守ってくれますよう。

(ウエルギリウス)¹⁾

つぎの昔の好奇心に満ちた作品を送ってくれた友人恋の詭弁家に感謝します²⁾。これを彼自身の言葉でみなさんにお伝えしたいと思います。

観察者殿

貴殿は、小生が最近パークシャー州のイーストおよびウエストエンボーンの荘園での昔の慣習についてお伝えしたことを覚えていらっしゃるに違いありません³⁾。慣習法上の借地人が死亡した場合には、寡婦は独身でいる間法律で言うフリーベンチつまり膳本保有権地を所有することになる。だが、独身生活が自制できなくなった場合には、その土地は没収されることになる。しかし、寡婦が黒い雄羊の尻尾を握って後ろ向きにまたがって出廷し、つぎのように言えば、財産管理人は慣習によって彼女に再びフリーベンチの所有を認めなくてはならない。

1) ウエルギリウス『アイネーイス』4.24-29

2) 恋の詭弁家は、第591号、602号、605号、614号にも登場。

3) 第614号参照。

わたしは黒い雄羊にまたがって、娼婦のような姿で
やって参りました。クリンカム・クランカムのために
ピンカム・バンカムを無くしてしまったのです。
それゆえ、財産管理人様、何卒土地をお返してください。

コーク卿⁴⁾に言わせると、これはイングランドで最も脆弱で分かりにくい土地保有様態だということをお知らせしましたが、先の手紙を書いて以来、約束にしたがって、黒い雄羊の記録を苦勞して捜し出したことをお伝えしておきます。そしてやっとこの点で1日中開催される莊園裁判所⁵⁾の記録を見つけ出しました。その記録によれば、老練の財産管理人が借地人たちの権利を厳格に調べて、莊園の土地の多くが寡婦たちの欠席により領主に没収されたとのことでした。そこで、善良な婦人たちは雄羊の助けを求めたのです。財産管理人は彼女たちの嘆願を精読して、彼女たちがたっぷりとした1日が持てるように、裁判を聖バルナバの日まで延期したのです⁶⁾。

裁判の日がやって来ました。裁判を傍聴するために、各地から大勢の人たちが詰めかけました。最初に入廷したのは寡婦フロントリーでした。彼女は昨年の格好をして登場しました。記録係によると、雄羊は鞍を置いた御しやすいもので、さらに機会があると見越して、彼女が財産管理人からその雄羊を購入したとのことでした。

つぎにやって来たのは親方ジョン・デインティーの寡婦である（教区一の気取り屋）サラ・デインティーでした。最初のうち彼女は尻尾を握るのに苦勞し、懺悔の言葉を発するとき、強勢音の2語クリンカム・クランカムの語勢を穏やかなものにして様子伺えしました。しかし、財産管理人は土地を返す前に、彼女に気取らない英語を喋るように注意しました。

気の荒い雄羊にまたがってこの恥さらしの場面にやって来た3人目の寡婦は、不幸にして雄羊から振り落とされてしまいました。彼女はこれに対して最後までまたがっていられたことを許して欲しいと言いました。しかし、法律に精通している財産管理人は、このとき賢明にも、縄が切れたことは罪人の処分執行の妨げにはならないと言いました。

記録の残っている4人目の寡婦は男たらしで名高い寡婦オーグルでした。彼女は2年間で入れ代わり立ち代わり10人の若者と付き合っていたのです。だが、彼女は荷馬車屋のカーターに一番入れ込んでいましたので、ほかの恋人たちからは罵声を浴びせられました。

気まぐれな雄羊と同色の新品の喪服姿で登場したセーブル夫人はとても上品でした。

出廷するように呼び出されていたもう一人の寡婦は、実際には善良な郷紳が彼女に雄羊を与えていたことを知っていましたが、財産管理人から大目に見られました。

クウィック夫人は告発に何一つ異議を唱えませんが、お腹のせいだと弁明しました。だ

4) サー・エドワード・コーク（1552-1634）は、イングランドの法律家で権利請願の起草者。

5) 莊園裁判所（Court Baron）については、カウウェル『法律用語辞典』参照。昔は、莊園領主のことをBaron（封建領主）と呼んだ。

6) 聖バルナバの日（6月11日）は旧暦で昼が最も長い日だった。

が、1年前にも同じ言い訳をしていたのです。そこで、財産管理人は、彼女は荘園に貢献しないためにそんなことを考え出したのだと言いました。

法廷に召喚された寡婦のフィジエットは夫の死後も存命中と何一つ変わらない生活をして来たと言いました。同時に、財産管理人に奥さんよりも早く亡くなった場合、奥さんがどうなるか考えて欲しいものと言いました。

つぎの順番は大変な肥満体の寡婦でした。彼女は自分が乗れる雄羊を見つけることができなかつたと弁解しました。すると、財産管理人は彼女の罰則を軽減して、黒い雄牛でやって来るように指示しました。

長らくとても潔白に生きて来ている寡婦のマスクウェルは、むっとした年老いたお手伝いさんを解雇しました。彼女は執念深い女性によって、1日に9回も黒い雄羊で法廷に連れて来られたのでした。

ほかにも数名法廷に召喚されましたが、彼女たちは自分たちには荘園の保有権はないと明らかにしましたので解放されました。

行列の最後を飾った奇麗な若い婦人は非常に魅惑的な様子を振りまきながらゆっくりとやって来ましたので、財産管理人が彼女に色目をつかっているのが分かりました。財産管理人は妻の死後1か月しないうちに彼女と結婚したのです。

要注意：タッチウッド夫人は呼び出しに応じてやって来ましたが、一切非難されませんでした。夫の死後非の打ちどころのない生活をしていたのです。彼女は69歳で寡婦となったのでした。

第624号 1714年11月24日（水曜日）

【ティッケル】

汚い野望や、蓄財に心を悩ます連中や、奢った暮らしや、
くだらない迷信、その他心にある病の熱に取りつかれている者たちは、
今ここで襟を正して、聞くがいい。(ホラティウス)¹⁾

人間は仕事をしている人としていない人の2つに分類されます。仕事をしている人は有徳の人と堕落した人に、そして堕落している人はさらに貪欲な人、野心家、そして好色な人に分けることが出来るかも知れません。怠惰な人はこれらいずれよりも劣った状態となります。ほかの者はいずれも、しばしば方向性が間違っていますが、幸福の追求に没頭しており、しがたって、その目的にふさわしい手段を講じようと注意を払っているのです。現世に対しても来世に対しても通じていない怠惰な人たちはティロットソン博士からまさに「愚か者全般」と呼ばれています²⁾。彼らは目的を持たず、行動に一貫がありません。彼らは忠告に耳を貸すことはほとんどありませんので、忠告があっても見逃してしまいま

1) ホラティウス『諷刺』2.3.77-79

2) ティロットソンの説教への言及。ジョン・ティロットソン(1630-94)は、1691年から亡くなるまでカンタベリー大主教を務めた。

す。私はこういったつまらない人たちを長々とした説教をして疲れさせる積りはありませんが、彼らには「さびよりも輝きの方が好ましいように、怠惰より労働の方が好ましい」というプラトンの短い格言を残して置きます³⁾。

活動的な人々の追求は信仰と美德あるいは富や名誉や喜びのいずれかの道を歩むこととなります。そこで、私は強欲や野望や肉欲的な快樂の追求とこれと逆の美德の追求を比較して、どちらが労力、苦しみ、勤勉の度合いが大きいかを考えてみたいと思います。冷静な考えを持つ大半の人々は、美德の道を歩むことが最終的には十分に報われるけれど、その道は険しく狭いのだと快く認めるでしょう。したがって、幸福になるにも不幸せになるにも同じように幾多の苦難と闘うように見えるとしても、それによって失うものが何もないと分かると、読者はおそらく有徳の道を選ぶこととなります。

最初に強欲について見て行きます。勤勉さにかけては聖人よりも守銭奴の方が勝ります。失うことを恐れ、富を享受できないのではという苦勞は昔から風刺的となって来ました。いい儲け口を見過ごしたことへの後悔、出し抜かれたことへの無念さ、金を増やしたいという願望、さらに、困窮状態に陥るのではという恐れが生じますと、キリスト教徒にふさわしい慈善と美德とはまったく異なったものになります。こういった人には聖パウロの言う苦難の目録があてはまるかも知れません。「幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国人の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった⁴⁾。はるかに少ない犠牲で「天に宝をたくわえる」⁵⁾かも知れませんし、また、可能なら、これに偉大なる哲学者の格言を付け加えることが出来るかも知れません。「ユピテルの怒りも火も剣も貪婪な時間の歯牙も減ぼすことのできない⁶⁾」ものを蓄えるかも知れないのです。

第二に、野望の勞苦について、強欲の勞苦と同じように考えて見ますと、不変の栄光を獲得するのに要する勞力は2、3年の権力と名声を得るよりもはるかに小さなものであることが直ちに分かります。言い換えますと、名誉は獲得するよりも受けるに値する方が簡単なのです。野心家は枢機卿ウルジーの不滿を思い出すべきです。「おれが王に仕えた半分ほどの熱意をもって天にまします神にお仕えしていたら、神もこの年になったおれを素裸で敵のなかにほうり出されたりはしなかったろう⁷⁾」。枢機卿はここでは王に仕えたというもっともらしい口実によって、彼の野望を和らげています。だが一方で、この場にふさわしい枢機卿の言葉は、もし自分が野望ではなく信仰による行動を取っていれば、全世界が自分に背を向けている今信仰の安らぎを得ていたはずだということを暗示しているのです。

3) これはプラトン『国家』609Aの読み違いに思われる。

4) 『コリント人への第二の手紙』第11章第26-27節。

5) 『マタイによる福音書』第6章第20節。

6) オウイディウス『変身物語』15.871-2 参照。

7) シェイクスピア『ヘンリー8世』3幕2場455-7行。この箇所は小田島雄志訳を借用。

第三に、好色な人々と有徳の人々の苦しみを比較し、どちらが重篤であるか考えて見ます。放蕩者が苦しい生活を送るので生き方を変えるように忠告を受けるのは一見奇妙に思われるかも知れません。だが、非常に多くの不安を抱え、さまざまな感情に弄ばれながら活発かつ用心深く快樂を追い求めている様子を見ると、出来ることなら、彼らの味わう苦痛が楽しみに勝っていないのかどうか考えて貰いたいと思います。男女両性の一方に対する不実、そして、他方への気まま、理性の墮落、期待することの苦しみ、自分のものにできないことへの失望、後悔の苦痛、虚栄心、苛立ち、これはすべて人生の本分としている最も洗練された楽しみにも付随するものですが、人生をととても馬鹿げて居心地のよくないものにしてしまいます。賢明だと思われるのはそれを乗り越えて、つまり幸福になって初めて可能なことですが、賢明さの度合いはどれだけ排除するかにかかっています。

結局のところ、人間は活動的な生き物として作られているのです。美德あるいは悪徳の道を歩んでも、必ず、忍耐を必要とし努力を掻き立てる幾多の困難に遭遇します。悪徳や愚行にはそれほど大きな努力ではないにしても、美德や賢明に対するのと同じことが求められます。いずれの道を選ぶかで、幸福あるいは後悔を手にするかが変わってきます。

第625号 1714年11月26日（金曜日）

【ティッケル】

子供のときから不純な愛を抱いている。(ホラティウス)¹⁾

恋の詭弁家が、私の是認を求めて、各質問に彼の返答を添えたつぎの質問状を送って来ました²⁾。そこで、私はそこにある幾つかの問題点を検討しました。そして、彼の返答を承認裁可し、礼儀正しい質問者にはこれに従うことを求めます。

前略

わたしはこの11月9日で13歳になり、社交界へのデビューを考え始めなくてはなりません。そこで、わたしに言い寄っていますフォンドルさんをどのように扱ったらよいか貴方のご助言をいただきたいと思っています。彼はとても洒落た方で、これまで見たこともないような真黒な目と真っ白い歯の持ち主です。彼は弟なのですが、服装はまるで上流人士のようで、部屋に入って来る人の中で彼のような人物は誰一人いません。わたしは彼が立派な求婚を断ったことを承知しています。そして、もしわたしと結婚しないとしたら、彼はどなたとも結婚なさらないでしょう。ところが、町でも名高い才人の一人である彼がわたしに詩を送って来たために、わたしの父は家への出入りを禁じています。好意でわたしのことを「お嬢³⁾」と呼ぶ姉の方がわたしより先に結婚すべきだと誰もが言います。姉は

1) ホラティウス『頌詩』3.6.23-24

2) 第591号参照。

3) お嬢 (Miss) という言葉は、アン女王時代には10歳以下の少女たちに用いられることはなかったが、非難めいた言い方で、未婚の若い女性はすべて Mistress ないし Madam と呼ばれていた。

みんなに、フォンドルさんはわたしのことをかついでいるのであって、姉はわたしのことをこう呼ぶのですが、自信満々でこの子を駄目にしてしまうと云います。要するに、姉を怒らせることになろうとも、わたしはフォンドルさんと結婚する積りです。しかし、生意気なことはしたくありませんので、以下に書き記しますいくつかの質問に貴方のご返答をいただき、それをスペクテイター紙で活字にさせていただくことをお願いする次第です。必ず貴方のご助言をいただけるものと確信しますし、わたしがその助言に従うのも確かなことです。

質問：フォンドルさんが30分間続けてわたしを見ているとき、彼は恋をしているのではありませんか。

返答：ええ、恋をしているのではありません。

質問：結婚持参金の半分をわたしの生活費⁴⁾にし、おまけに6頭立て馬車を用意してくれる約束してくれた彼が優しい夫になると確信できないでしょうか。

返答：ええ、出来ません。

質問：知り合ってほぼ1年になるわたしの方が、食卓でしか彼が話すのを聞いたことのない父母よりも、彼の長所がよく分かるのではないのでしょうか。

返答：いいえ、分かりません。

質問：わたしは自分で選択できるだけの年齢に達しているのではないのでしょうか。

返答：いいえ、達してはいません。

質問：彼のひとふさの髪の毛を捨てたのは失礼ではなかったでしょうか。

返答：ええ、失礼なことではありません。

質問：いつもわたしのことで溜息をついている人を気の毒に思わなかったら、とても残忍な女とならないでしょうか。

返答：ええ、そんなことにはなりません。

質問：貴方はわたしにこの気の毒な人と駆け落ちをするようにお勧めにはならないのでしょうか。

返答：ええ、そんなことは勧めません。

質問：もしわたしが彼と一緒にいなくても、彼は溺死しないとお考えでしょうか。

返答：ええ、大丈夫です。

質問：今度結婚を求められたとき、わたしは何とお返事したらいいのでしょうか。

返答：結婚はいたしません、とお返事なさい。

つぎの手紙は前置きも返答も必要としません。

観察者殿

現状では貴殿がほかでもない目新しいことを書くことを楽しんでいらっしゃるのではと考えています。要するに、他人の出来事に関心を寄せていらっしゃるに違いないのです。

4) Pin-money (生活費, 小遣い) については、第295号参照。

知識を高め、刻一刻何か目新しいことを知る喜びは、理性的動物の最も気高い楽しみとなる訳です。小生は秘密に対して鋭い聴覚を有していて、当然、すぐに誰かに喋りたくなります。そういう訳で、小生はこの点で貴殿に大いに貢献できます。役立つために、早くから控えの間に陣取り、暖かい間はドアを開けたまま、新聞の山に首を突っ込み、ニュースを見つめます。時にはビーフィーター⁵⁾の傍に立ち、噂を耳に入れます。またある時には、壁に耳を近づけて、街角から街角へと流れて来る沢山の貴重なささやきを吸収します。立っているのに疲れると、近くのコーヒーハウスに入ります。そこで時々1日中座って、裁判所から着いたばかりのニュースを入手します。要するに、小生は世間の出来事を知るのに労をいとわないのです。ニュースは1時間もすると香りが無くなります。こう言って差し支えないとしますと、小生は木からもぎたての新鮮なものを手に入れ、それが萎れるまでに友人に伝えるのが好きなのです。したがって、馬車の使用料は半端ではありません。何しろコーヒーハウスは梯子をしますし、イーヴニング・ポスト紙⁶⁾は2時間で買い占めるのですから。2、3度小生をまいて、チャイルド・コーヒーハウスに先回りしていた紳士がいます。しかし、小生はこの紳士にいたずらをしたのです。小生の金で買える最高の馬車馬を2頭購入し、彼に小生を出し抜かせているのです。観察者殿、今一度お願いします、ニュースの扱いを小生に委ねてください。貴殿は小生の助力を当てにすることが可能です。ところで、これから手紙を20通書かなくてはなりませんので、唐突ですがここでペンを擱かなくてはなりません。

取り急ぎ、ゴシップ屋より

第626号 1714年11月29日（月曜日）

【グローヴ】

わたしは、もっと珍しい話をして、あなたがたの心を
引き付けましょう。(オウィディウス)¹⁾

人生のごくつまらないことに端をした即興の思索から成り立っている学者の小品を拝見しました。この人の通常の方法は、人の奇妙な身振りとか動物の風変わりな理性の擬態とかその他注目に値すると思われることを目にしたときに心に生じる思いつきを書き留めることでした。彼はかぎタバコ入れについて道徳的な観点から考察することが出来、女性の襟飾りやひだ飾りについて雄弁に語り、背まで長く垂れた鬢から効果的な断定を下すこと

5) Beef-Eater (国王衛士、ロンドン塔の守衛)。OEDによると、Beefeaterがthe Yeomen of the Guardの意味で用いられるようになったのは1485年のヘンリー7世の即位のときからで、ロンドン塔の守衛がそう呼ばれるようになったのはエドワード6世(イングランド王1547-53)の時代からとのこと。

6) 1706年に発行されたイーヴニング・ポストという新聞はあったが、ここではおそらく夕刊紙への言及。

1) オウィディウス『変身物語』4.284

が出来ました²⁾。聡明な寄稿者に対する弁解のつもりで、このことを述べて置くのがふさわしいと考えたのです。この寄稿者に申し上げて置きますが、真剣かつ崇高な思索にとってはあまりにも滑稽なつぎの手紙を送って来たのです。

観察者殿

老いた祖母が目の前で起こっていることには冷静に真面目くさった様子で傍に座っている中で、お茶目な女の子が楽しくてしかたないという表情を浮かべて、お宝をいじりながら、はしゃいでいるのを見たとき、私はこの二人の気分がどうしてこれほど好対照になるのだろうかと考えさせられました。二人の間の明らかな違いと言えば年齢差だけでした。そこで、私はひとえに「珍しさの力」にその答えがあると考えました。

どのような生き物でも、世の中に出て来て間もないものほど、自分たちの境遇に最も満足しているように見えるものです。なぜなら、新参者にとってはこれに加えて、とても心地よく感覚に訴えて来るものに新鮮味を感じ、存在そのものにさまざまな楽しみが伴っていない、喜びの感覚が掻き立てられるからです。ところが、年齢が進むにつれて、あらゆるものが色褪せて見え、五感がかつての楽しみに愛想をつかし、生活が単調で退屈になります。このことは人間の世界で例証されているのが分かるかも知れません。子供は痛ところがなく、新しいおもちゃを与えてやると、どんなにつまらないものでも喜びます³⁾。男の子の陽気さをかき乱すのはちょっとした罰つまり閉じ込めだけです。若者になると、もっと激しい喜びに時間を割くに違いありません。大人になると、富とか野心の追求に専念した慌ただしい活動的な生活を好みます。最後に、老齢になると、こういった気晴らしをする能力が無くなり、年齢そのものが耐えられない重荷となります。この変化はある程度は身心の機能の活発さと衰退によるのだと言えるかも知れません。しかし、私は主としてつぎのせいだと思います。つまり、長く生きればそれだけ楽しみが感じ取れなくなり、人生に伴う飽満感と退屈さを払拭するにはさらに多くの偶発的な楽しみを必要とするからなのです。

その場合、珍しさは非常に効力を発揮し、同時に、大きな影響力を持ちます。昔から道徳家たちは珍しさが驚異の念の源だと言って来ました。驚異の念というのは馴染みになればそれだけ減じますし、完全に知ってしまいますとすっかり消滅します⁴⁾。ところで、私が思いますに、一般に驚異以外のほかの感情もかなりな部分これと同じ事情によって決まると言われたことはありません。欲望を覚醒させ、喜びを増大させ、怒りを煽り、妬みを誘発し、恐怖を抱かせる珍しさとは一体何なのでしょう。愛情は結実してしまうと衰え、友情そのものは間隔があくと好ましく思えるのだと考えなくてなりません。それゆえ、慣れてしまうと、化け物を見ても嫌悪感は無くなり、絶世の美女を見てもうっとりすること

2) ヘンリー・モーリー (1822-94) は、これはロバート・ボイルの『瞑想録』への言及と考えた。

3) ポープ『人間論』2.275-82参照。

4) クラレンス・ディー・ソープ「珍しさについて、アディソンおよびその前任者たち」(PMLA, 52号, 1937) 参照。

はありません⁵⁾。感情というものは普通驚きをもたらす結果なのです。驚きが持続する限り対象に対する快適あるいは不快な気分が強まります。しかし、この感情が途絶えますと、(珍しさを覚えなくなると)、事態は別の様相を呈し、それまであれほど感動したのですが、本来の活力を感じなくなってしまいます。

珍しさを好むことはいかに避けがたいことか、そして、どの点で現状に当てはめられるか問うてみることは無益なことでないかも知れません。私には、理性的動物が何事につけ努力しないで獲得したことで完全に満足するなんてことはあり得ないように思われます。知性が最高度に向上しても、まだ知る価値のあるものが数限りなく残されているのだと考え、これに無関心でいることには耐えられなくなります。広い平原の中にある丘に登ることで、視界は広がり、それとともに、欲望の領域も広がるのです。この状況で、絶えず新たなものを探究し、永遠を求めて神の極致という測り知れないほどの深淵に入り込んでいる天国の諸聖人の状態を損なうとは考えられません。この考えにあるものは、ひとえにこういった栄光を与えられた人々への敬意なのです。ただし、その場合さらなる欲望は現状を嫌悪することか生じないことが大切です。新たな楽しみの喜びは、(単に知らない偶発的なものに対する)珍しさではなく、それが有する真の本質的な価値がその尺度となります。神の御業を知って長くなりますが、天地創造の美と荘厳さには、この栄光ある景色をアダムが最初に目を開けて見たときに強烈に引き付けられたのと同じ心地よい驚きと深遠な畏怖が満ち溢れています。真実は持ち前の魅力で人心を魅了し、一度満足を与えてくれたものはいつまでも心を満たしてくれます。あまりにも病的で移り気な欲求に支配されるために、全知全能の神の並外れた作品をととも冷やかに見つめ、つまらない慈善についての随筆に夢中になることが出来る私たち人間よりも、諸聖人の方が明らかにあらゆる点で優位な立場にあります。要するに、この上なく崇高でこの上なく重要な思索を、どう見ても重要でない目新しい考えを取り入れるために人目につかない片隅に追いやってしまうのです。さらに、代替の苦痛で活を与えられないために健康そのものにも倦み、優秀さも信望も勝っている人の第2、第3の書よりもどうしてもよい著者の第1の書を読みたがります。

このように作られている私たち人間は、現状では多くの有益な目的を果たすために尽くしています。学問の発展に大きな貢献をしています。人々に進んで哲学論文を一生懸命読ませるのはひとえに斬新さを求めているからなのだ、とキケロは言っています。探究の分野と目標があり、怠惰な状態に陥っている精神を効果的に覚醒させる不断の知識欲によって悟性が刺激を受けるだけでは十分ではありません。最初に真実を知ったときに添えられる並外れた喜びがなくてはなりません。この喜びは当分の間は持続しますが一時的なものです。このため、元の無関心な気持になり、喜びが再現されることを期待して新しい発見をしようします。知識とか富の喜びはそれまでの蓄積を回顧するときよりも、際限なく追加して行くときの方が大きいのです。あまりにも熱心に何か目新しいものを追求することで、しばらく時間を要する、あるいはさらに悪いことに、新鮮な香りを嗅ぐだけで満足し、

5) ポープ『人間論』2.217-20参照。

確実に分かる前にそうだと得心してしまいます。そして時間をかけることに何度も苛立ってしまいますと、不都合な点が生じます。ロック氏の言い方を借りれば、「少し見ただけで、多くを推定し、一足飛びに結論に達する」ということになります⁶⁾。

現在詳細に説明していますように、珍しさを求めるさらなる利点は、珍しさが人々の自慢のしるしをすべて無力にすることです。自分よりも優れている人たちを羨ましく思うことはありません。仰々しい肩書、堂々とした建物、見事な庭、華美な馬車、豪華な馬具、それが何だと言うのです。こういった物は所有者以外のすべての人々の目をくらませますが、これらに慣れている所有者にとっては、安っぽい何と云うことのない物なのです。所有者により強烈な考えあるいはより高尚な満足感を与えることはありません。考えや満足感つましい生活を維持するだけの資産しかない質素な人のそれと何も変わりません。彼は豪華な部屋に入るとき気に留めることはありません。ちょうどあなたや私がお粗末な部屋に入るときと同じで何も変わらないのです。見事な絵画や高価な家具は彼には効き目がありません。彼は目にしないのです。慣れによって限りなく壮大で完成された骨組み、宇宙の骨組みが住民から顧みられないとしたらどうしようもありません。天の不滅の灯が照らされても無駄なのです。寛大な神のお陰で、本来子供たちはすべて同等に扱われるだけでなく、この原理の力によって、見せかけの差違を経験させるためにこれを維持しているのです。

これ以上付け加えませんが、すでに持っているものに愛想をつかさせる珍しさを好むことは死後の状態の納得のいく証拠になりますか。人間はみだりに作られたのか、それとも、現世が人間にふさわしい唯一の世界ではないのか。人間が「ゆりかごから墓場まで」⁷⁾ 束の間の幸福の影によって惑わされがちになる虚栄ほど、はっきりした例はありません。喜び、重要でない喜びは所有することで無くなり、新鮮な楽しみが早く生まれて人生の半分を満足感で満たしてくれることはありません。現在の思いを束縛する力を持った何かに呼び止められるまでに自分にうんざりしている人たちを見ると、田舎から町へ、そしてまた町から田舎へと絶えず場所を変え、思いつくことが出来るあらゆることに慌ただしく取り組んでいる人たちを見ると、「きっと人生はむなしく、人生の虚栄から集中できない人は言葉では言い表せないほど愚かであるか偏見を持っているのであって、不死をあてにしているのだ」と私は思うのです⁸⁾。

第627号 1714年12月1日（水曜日）

【ティッケル】

彼はただ独りブナの木陰で、森や山に向かって
嘆きの声を発した。(ウェルギリウス)¹⁾

6) この箇所がOEDに引用されている。

7) OEDの「ゆりかごから墓場まで」の言い回しの初出は、1705年の『タトラー紙』第52号。

8) ジョンソンはこの随筆を英語で書かれた最も美しいものの一つと考えた。

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』2.3-5

先頃届きましたつぎの話は心優しく暇を持て余している読者にぴったりの気晴らしになるかも知れません。

観察者殿

先週、私の友人が発熱をこじらせて死亡しました。彼は露の降りた夜遅く刈り手たちの中を歩き回ったために熱病に罹ったのでした。お知らせして置かなくてはなりません、彼の最大の楽しみは農業と庭いじりでした。彼はその他の点では申し分のない分別の持ち主なのですが、その分別と矛盾していると思える気質を持ち合わせていました。女性を相手にしたときの彼の落ち着きのなさは、このように育ちのよい人にはとても珍しいことでした。これまで時間の大半を過ごして来た庭に特別の散歩道を作っていないことが、彼の住んでいる村の人たちの間に根拠のない憶測を呼びました。彼の記録を読んでみて、親友たちにもほのめかしたことの無いその理由が分かりました。若いとき熱烈な恋をしたようで、彼が残した大量の手紙がその証拠となっています。貴殿に彼がこれについて記した最後の手紙をお届けします。これをお読みになれば、彼が女性の本名を隠してゼリンダとしているのがお分かりいただけます。

もし私がやっていますことが片時も私の心から離れることのないわがゼリンダのためにならなかつたら、1か月もの長い不在は私にとって耐え難いものになるでしょう。家は貴女の、よろしければ、私の好み通りにしつらえました。というのは、その後ずっと貴女のことしか考えられなくなったからです。貴女用の部屋は現在貴女が住んでおられる部屋と寸分変わりませんので、その部屋に一步足を入れますと、しばしば自分は貴女のお宅にいるのではと思ってしまう。でも、当の本人がいないと分かると溜息が出て来ます。貴女用の私室の窓からは、イングランドが提供するこの上なく爽快な眺めが目に入って来ます。かりにこういった変化に富む景色が私たち二人の間に横たわっている広大な空間を暗示してくれないとしても、私は必ずやそうであるに違いないと考えています。

庭はとても美しく配置されています。生け垣はスイカズラで、コーナー毎にあずまやを設け、ささやかな楽園をこしらえました。だが、私はそれでも寂しいアダムと変わりなく、パートナーがいない中途半端な祝福を受けている状態です。私は二人のために散歩道を作るように指示しました。そこで、貴女を満足させると請け合います。すでにちょっとした夕べの散歩をし、貴女と一緒に歩いているのだと思って気持ちを落ち着けながら小道の地ならしをして置きました。この人目につかない場所でいろいろ貴女と架空のお話をしています。疲れて来ると、ジャスミンに囲まれた場所で貴女と一緒に腰を下ろします。この物言わぬ会で、私が発するいろいろ喜びと歓喜の言葉のために、私はしばらくの間教区民の噂の種になります。農夫の娘に恋をしている近所の若者は、私を見つけ出し、私のことを近所中に触れ回ったのです。

果樹を植えるときには、私は必ず貴女が大好きな桃の木を植えるようにしています。川沿いに榆の木の散歩道をこしらえ、辺り一帯にキバナクリンザクラの種を蒔く積りです。

貴女の父上の家の傍で貴女が口になさっていたように、気に入って貰えるものと思います。

ああゼリнда、私はなんと素晴らしい喜びの図面を想像していることでしょうか。なんとした白昼夢に耽っていることでしょうか。私と私に約束された幸福の間に横たわる6週間はいつ終わるのでしょうか。

どうしたら最後の最後で突然話を打ち切って、芝居に行くのに着替えしなくてはならないと言えるのでしょうか。もし私が愛するように貴女が愛してくれたら、貴女はこれ以上人混みに出て行く必要はなく、私も寂しくしている必要はないのです。

この手紙の裏面には故人の手でつぎの事柄が記載されています。

備忘録：まる1週間この手紙への返事を待ったのち、私は急いで町へ向かいました。すると、不実な彼女が私の恋敵と結婚しているのが分かりました。私としてはそれに耐え、不実で恩知らずの女性のために用意したが無駄であったあの人目につかない場所で、独力で幸福を見つけることにします。

第628号 1714年12月3日（金曜日）

【ティツケル】

川はいつまでも相変わらず流れ続けるだろう。（ホラティウス）¹⁾

観察者殿

貴殿の思索の中で気に入っているものと言え、**「無限と永遠」**に関する思索が群を抜いています²⁾。貴殿はすでに過去の永遠について考察なさっていますので、将来の永遠についてのお考え述べていただきたいと思います。

過去の永遠についての思索は有益というよりもむしろ好奇心をそそられるものですが、私たち誰もが将来の永遠について関心を寄せていますので、それについてのご意見を頂きますと、読者はおそらく以前の思索よりも大きな喜びを覚えることでしょうか。

おまけに、そうしていただけますと、おそらく私たちは終わりがなくいつまでも持続することが可能だと考えることになります。もっとも、貴殿は当然のことながら始まりのない永遠はまったく理解不能だと述べておられますが³⁾。要するに、これまでの永遠の持続は想像できないのですが、今後あり得る永遠の持続は想像できる訳です。哲学的な用語を使えば、**実在の永遠は理解できないが、潜在的なそれは理解できる訳です。**

人間にとって自然な将来の永遠に対するこういった考えは、人間はそのために作られているのだという反論の余地のない主張となります。とりわけ、人間は現世では徳高くも邪悪にもなれると考えた場合はそうなります。人間はあらゆる永遠に対して改善可能な能力

1) ホラティウス『書簡詩』1.2.43

2) 「無限と永遠」については、第565号、571号、580号、590号にも登場。

3) 第590号参照。

を備えており、その能力の使い方次第で、この無限の持続を通じて幸せにも不幸にもなるのです。実際には、この永遠に対する考えは妥当性があるあるいは確固としたものではなく、人間が理解するには大きすぎる対象に対して、絶えず強くなりかつ広くなるものです。今私たちは存在の始まりにいますように、心の中では常に将来の永遠に備えているかのようになるものです。百万年あるいは2百年経つと、すでに過ぎ去った大切な出来事は記憶から消え去ります。驚くべき方法で強化されない限り、おそらくかつて太陽とか惑星があったことも忘れてしまうことでしょう。だが、私たち人間は長い歩みを持つことになりませんが、ゴールから出発したばかりの自分たちを想像し、始まりがあると分かっている空間と終わりがないと確信する空間の釣合いが分かりません。

ところで、この件に関しては貴殿にお任せすることにします。貴殿は読者を向上させ同時に楽しませる見方を与えてくださるものと確信します。

この機会を利用して、カトーの演説の翻訳を同封します。これは偶々入手したものです。もっとも、翻訳では良心、純粹さ、そして言い回しの気品といったことが十分には称えられていませんけれど⁴⁾。

5幕1場

カトーただ一人で

そうであるに違いない。プラトンよ、あなたの言うとおりで。
 そうでなければ、この心地よい希望、この虫のいい願い、
 この不死への熱望はどこから生まれるのか。
 また、無に帰するのではないかというこの密かな恐れ、
 内なる恐怖はどこから生まれるのか。
 なぜ魂がしり込みし、滅亡することに脅えるのか、
 我々の心の中でうごめいているのは神の力だ。
 神自らが人に死後の世界を指し示し、知らせているのだ。
 永遠！ お前は何と心地よく、畏怖すべき考えであることか！

何とさまざまな未経験の存在を、何と目新しい場面や変化を、
 我々は経験しなくてはならないことか！
 広大で限らない景色が私の眼前に広がっている。
 だが、そこに、影、雲、闇が垂れ込めている。
 ここで私は持ちこたえるのだ。我々に勝る有力者がいるとすれば、
 (自然はすべての御業に行き渡る大声をあげ)、その有力者は
 美德を喜ぶに違いない。そして、その喜びは幸福になることで
 なくてはならない。しかし、それはいつ、どこで可能なのか。

4) 『カトー』はアディソンの作品で、これは5幕1場のこと。

この世界はカエサルのために作られたのだ。
 私はあれこれ憶測することに倦み疲れた。
 これに終止符を打たなくてはならない。

〔彼は剣に手を添えながら〕

こうして、私は死と生の双方に対して身を固めた。
 毒も解毒剤も共に私の目の前にある。これが瞬く間に私に死を
 もたらしてくれる。だが一方で、私は死にはしないと教えてくれる。
 確かに存在する魂は、抜身の短剣を見ても微笑みを浮かべるだけで、
 切っ先をものともしない。星々は消え去り、太陽は寄る年波で薄れ、
 自然は年老いて没することになろう。
 しかし、あなたは分子間の戦い、物質の破壊、世界の崩壊があっても
 傷つかず不死の若さを保つことだろう。

第629号 1714年12月6日（月曜日）

【ティッケル】

私の書くことは、フラミアおよびラティウム街道によって
 その遺灰が覆われている人たちに敵対していることを認めよう。

（ユヴェナリス）¹⁾

同情を買うという点では、地位を欲しがる人たちよりも地位を懇願される人たちの方が勝ります。はっきりと拒否してしまいますと、傲慢と見なされますし、丁重に返事しますと約束と見なされます。

この場合、人々の自負ほど滑稽なものはありません。敵対者が活躍中に受けるあらゆることは、確かに対立する党の悪意によって引き起こされたのです。もし悪意を持った人物が裁判官席についていなかったら、お粗末な訴訟に負けることはなかったことでしょう。また、もし放蕩者が夜な夜な追放された牧師のために乾杯して酔っ払っていなかったら、勘当されることはなかったでしょう。汚名を受けるに足る悪ふざけをしたかどで法廷において罰金を科されたトーリー党員が、仲間が政権を取ったときその功績で自分を治安判事にして欲しいと言ったのを覚えています。ホイッグ党員の罪人が強姦罪で起訴されたとき、友人たちに「主義を守り通すことで大きな苦しみを味わうことになるのだよ」と言ったのを忘れはしません。

実を言いますと、党派に属している人の難儀はとても疑わしいものです。彼らが正当な理由を並べ立て、不当に攻撃する立場にいるときは、ほかにいかなる主張があっても自分たちの言い分を通し、報いを受ける権利を持っています。しかし、彼らが軽率つまり無分別になり、自分たちの目指す利益を促進するというよりむしろ台無しにしてしまうような

1) ユヴェナリス『諷刺』1.170-1

手段を追求しますと、(これは常に多くの受難者を生み出すことになるのですが)、彼らは自分たちを暴力あるいは愚行の崇拜者へと推挙するだけになります。

チャールズ2世が復古したときに、数名の王党員たちが提出した回想録の束があります。これには現在の目的に見合った数多くの事例が載っています。

著者は数名の人物と主張を記録していますが、その中で、チャールズ王の偉大なる知恵にふさわしいと考え、王の誕生日に雄牛を一頭丸焼きにし、大樽を贈って、聖職者に任命して欲しいと言った大資産家について触れています。

つぎの例は、最悪のときにあえて王子の健康を祝して乾杯したヘンリー王子の家庭教師でした²⁾。

三番目は、オリヴァー・クロムウェルの死の前日、公開の芝生上で彼をののしったことで大佐への任官を嘆願した例です。

しかし私が目にした最も風変わりな嘆願は郷士ビー・ビーの嘆願です。彼は名高い円頂党員サー・ティー・ダブリューの妻を寝取ったことで勲爵士としての叙勲を希望したのです。

同様につぎのような嘆願もあります。この人物はチャールズ1世の殉死からチャールズ2世が復古するまで顎鬚を剃り落さず伸び放題にさせて、それでもって枢密顧問官になることを希望しました。

その後明らかになったのですが、王政復古のための方策を記した手紙をこの回想録作者が貴族間にてきばきと運んでいたのだと回想録に明記されているのを無視する訳にはいきません。回想録作者は、これがなかったら、めでたい革命は成し遂げられなかったと固く信じているのです。そこで、彼は通信大臣のポストを希望するのです。

見たところ意気盛んに書いており、嘆願書ではしきりに勇敢とか紳士然とした言葉を用いているある紳士は、(大変な危険と不利をおして、自分がこの10年間忠誠を尽くす王党派の帽子のかぶり方をしてきたことを考慮して)、近衛兵の隊長にしてくれるよう懇願しています。

ある嘆願書について詳細にお伝えすることでこの回想録についての話を締め括りたいと思います。これはとても貴重な物ですので、読者にお勧めします。

郷士イー・エイチの嘆願書は、おそれながらつぎのことを明らかにする：

嘆願者の父の兄弟の叔父ダブリュー・エイチ大佐がエッジヒルの戦い³⁾で左手の薬指を失ったこと。

嘆願者は(弟であるために)財産はごくわずかしかないにも関わらず、(その名前は末尾に署名されていますが)数名の誠実な紳士がいつでも証言しますように、常に歓待することを忘れず、日曜日毎に、円頂党員たちの破滅を願って10杯飲み干したこと。

嘆願者は新年にいまいましい仮差し押さえ人⁴⁾サー・ピー・ピーと聖職者会議⁵⁾の3名

2) チャールズ1世の第3子、グロスター公ヘンリーは、1640年に生まれ、1660年9月に亡くなった。

3) エッジヒルの戦いは1642年10月23日の戦いで、大内乱における最初の交戦。両陣営は大混乱に陥り、約4千人の戦死者が遺棄されたままだったと言われる。

をブローン・ミンスパイ⁶⁾でもてなしたことで注目に値すること。

上述の嘆願者は5度にわたる暴動の首謀者だったために、州刑務所の5か所で投獄された経歴があること。これは資産家たちが決起する勇気がないので、彼が国王に対する熱意に駆られて立ち上がった結果とのこと。

上述のイー・エイチは国王を守るために決闘を6回と拳闘の試合を24回行ったとのこと。さらに、彼はストラットフォード・アポン・エイヴォンの大かがり火のとき、それ以来今日まで体調がすぐれないほどの打撃を頭に受けたとのこと。

先のいまわしい時代には資産を増やすどころではなかったので、もし自分に資産があったなら、確実に略奪され没収されていたと嘆願者が確信していること。

嘆願者は上述の功績や難儀を考慮して、税の出納係官、年貢の徴収官、治安書記、州副知事、あるいはその他資格があると思われるどんな地位でもいいから与えてもらいたいと願っていること。以上嘆願者は切にお願いする次第。

4) 共和制のもとで聖職録が奪われたことへの言及。

5) 1643年、長期議会によってウエストミンスター会議が召集された。

6) ブローン・ミンスパイは、共和制転覆後の反ピューリタンを象徴するご馳走。ブローンは豚や仔牛の頭や足を刻んで香料で煮てゼリー状に固めたもの。